

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 10月 29日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200627		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・八木		
所在地	〒731-0101 広島県広島市安佐南区八木一丁目10番10号 (電話) ① (082) 830-2588 ② (082) 830-2117		
自己評価作成日	令和5年9月21日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200627-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200627-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年10月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で利用者それぞれの個性を大切に、運営理念である「安らぎとよるこびのある日を、その人らしくいつまでも」を基本として思いやりのある温かいサービスを提供している。また、一人ひとりの意思や能力、人生人格を尊重し入居者の思いに寄り添い、柔軟に対応できるように体制を整えている。コロナ禍で外出の機会が減っている為、体操やおやつレクなど施設内で出来る行事に力を入れるように心掛けている。職員が楽しく働ける職場作りも気を配っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は各ユニットに管理者を置き、各々が単体としてケアの実践をしているが、コロナ禍により対外活動が制限される中で事業所内活動の活性化に努めている。例えば、閉じこもりによる体力低下に対し、物送り・玉入れゲーム等、座ってできる「遊びリテーション」等を工夫している。又、生活体力の基盤となる食についても「食事を楽しむことのできる支援」として、ケーキ屋から購入した7種のケーキからバイキング形式で好きな物を選んでもらったり、寿司の出前・幕の内弁当の購入・おでんパーティーやお酒の好きな利用者にはノンアルコールを提供する等の工夫をすることで嗜好品・楽しみ事・気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念にそった介護が出来ているか等、職員同士で意見を交わし合い、実践につなげる事が出来ている。	開設時に作った理念をケア実践上の道標とし、職員会議で適宜意見交換をしている。又それをもとに各ユニットで年間目標を策定し掲示、申し送り時に唱和して周知に努め、年度毎に検証している。各職員も数値化等、判定し易い年間目標を設定、年1回の個人面談で達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩等で顔を合わせたら挨拶をしているが、コロナ禍の為積極的な交流は出来ていない。	日頃から散歩で地域住民と挨拶を交わしたり、地域の美容院の利用、受診、季節のドライブ等で出掛けている。又、家族の面会、運営推進会議の参加者から地域情報を得たり、利用者・家族が農家の関係で野菜の差し入れがあり、それを近所におすそ分けする等、地域と相互交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍の為、地域との交流ができなかった為、認知症の方への理解をして頂ける機会がありませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、運営推進会議の開催は中止しておりますが、8月(第3回目)より対面での開催を開始。意見を頂き、サービス向上に努めている。	会議は隔月に開催し、8月からは民生委員・地域包括支援センター職員・訪問歯科職員・通所介護事業所管理者等との対面会議となっている。事故等に関する参加者から意見には対応策を口頭で説明したり、コロナ禍等で参加できない家族とは議事録の閲覧で情報共有する体制を取っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターなどにできるだけホームの状況を伝え、随時連携をとってサービスの向上を目指している。	地域包括支援センター職員は定期的に運営推進会議に参加し、その開催報告書はFAXで市担当課に送信している。担当課とは日頃から相談・報告や行政主催の口腔ケアのオンライン研修等で情報共有を図り、関係構築に努めている。又、生活保護の利用者に対し生活課職員の訪問もある。	

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>コロナ禍の為、外部研修には参加できていないものの、職員会議や資料配布、身体拘束適正化委員会等で具体的な行為を含め、身体拘束防止について理解し、職員間で共通意識を持って頂ける様取り組んでいる。定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、委員会担当職員も半年に1回交代し、知識向上に努めている。</p>	<p>三か月毎の身体拘束適正化委員会、年1回の内部研修・自己点検シート等を通し、職員は「拘束をしない」必要性を認識して具体的なケアの中で実践を重ねている。不適切なケアに対しては管理者が気づきを促している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員会議で定期的に勉強をし常に頭に入れケアにあたっている。細心の注意・防止に努めているが、時折、職員の口調がきつくなる面もあり、身体拘束も含めたすべての事項が虐待に当てはまる事の理解度はまだ少ない。また、個人面談を実施し職員の悩みや相談を聞き出来るだけストレス解消にも努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員会議などで必要性について話し合うことにより、早めの対応ができるように努めているが、新入社員も入社している事から、理解度にばらつきがあるのが現状。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前には必ず個別面談を行わせていただき、本人・家族様とお会いし話し合いを行うようにしている。契約の前段階で必ず見学をしてもらい、そこで不安などを聞き十分な説明を行い、理解・納得していただけるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>コロナ禍の為、電話にて意見などを聞けるよう努めている。また、面会に来られた時に直接ご意見・ご要望を伺い反映させている。この度も、家族会もおこなっていない。アンケートを実施し家族様の意見を取り入れて運営に活かしている。</p>	<p>家族とは面会時・介護計画更新時・年1回のサービス満足度調査・電話や様々な連絡手段等で管理者や職員が要望を把握する様に努めており、介護記録・職員会議等で共有して迅速な対応に努めている。家族からの要望で利用者が馴染みの美容院を利用できる様に管理者が支援した例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 八木① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りや職員会議、管理者が介護職員としても介護現場で業務を行う事で抵抗なく職員より意見等を聞く機会を設け、又、反映させている。平均30分程度の個人面談も実施している。会議等で意見しやすい環境を作るよう努めている。	毎月の職員会議、各種委員会、カンファレンス、毎日の申し送りや年1回又は随時の個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制を採っている。職員の提案により利用者の安全管理や職員の業務負担を考慮して新入職員の夜勤回数を調整した経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員それぞれに役割をつけるようにしている。また、資格取得に向けた支援や、目的意識を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員それぞれの力量を把握し、指導するようにしたり、資格取得へ向けた研修参加への提案、働きかけを行っている。コロナ禍の為、外部研修はなかなか参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍ではあるが、ホーム長会議もオンライン→対面に変更し、各施設とのホーム長同士の交流の機会が持っている。会議終了後にはホーム長のみで意見交換の場を設けている。同業者と電話での意見交換を行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談や事前の体験入居を行うことにより、本人の希望や心配事など考慮しながら、信頼関係を築けるようにコミュニケーションを図り、関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 八木① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の希望や不安など、十分な時間を取りいつでも話せる機会を設け、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の必要としている部分をできるだけ見極め対応している。必要時には他のサービス利用も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人がしたいこと、出来る事を見極めながら役割を持ってもらっている。尊敬する気持ちを忘れず一方的な行動を慎みともに助け合う気持ちを大切に接している。御本人様の気持ちの受容と共感を行いながらコミュニケーションをとり、日々の不安等、普段の会話からくみ取るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍の為、面会者の人数等制限や利用者の状態に合わせた対応等はあるものの出来るだけ対面で面会を行って頂ける様に努めている。又、電話や面会時に家族との情報交換、また相談など出来るだけコミュニケーションを図り、関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の為、馴染みの人に会う機会が減っているが、手紙やプレゼントを送ってきてくださる方もいる。またそれを利用者も喜ばれている。	現在は感染対策をした上で事務所での面会が可能であり、職員も席を外す等の配慮をしている。遠方の家族とのオンライン面会や電話・手紙のやり取り、馴染みの美容院、ドライブ途中の自宅巡り等、外出を通して馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目( 八木① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の人間関係や性格に配慮し、孤立しないよう、席の配置や、食事作り・作品作りなどのレクを通じて関係性に偏りが出来ない様に努めている。また、職員が間に入り、作品作りや自発的に会話が出来る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	コロナ禍の為、病院のお見舞いや、施設への面会ができないが、契約終了後にも電話にて家族との関わりがある。また、いつでも相談に応じれる体制をとるようにしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話の中や様子などから一人ひとりの変化に気づき、本人の希望や意見に出来るだけ沿えるようにしている。意志の疎通困難な方は、家族に相談するなどし対応している。気付いた事は職員間で共有し、意向に沿えるように努めている。	職員は利用者と一緒に話さず深く関わりを持ち思いを汲み取って職員会議・介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。利用者の生活歴や基本情報から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、編み物・脳トレ等、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族に今までの生活歴など伺い、個人ファイル等に記録を残し確認するなど状況を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者一人ひとりの出来る事を見極め、出来る事をしてもらう様、これまでやってきたことの継続ができるよう努めている。また、それぞれの状態・状況を常に意識し、記録の確認や把握に努め対応するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( 八木① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>普段の業務や毎月の職員会議、また本人の希望、家族との相談、関係者の意見を基に作成を行っている。</p>	<p>関係職種の意見も反映した原案をカンファレンスで検討し家族同意を得て本案としている。管理者が三カ月毎にモニタリングを集約し計画を見直している。馴染みの美容院を利用して笑顔の再会ができたり、好きなビールをノンアルコールで楽しむ等、意欲に繋がるニーズ抽出に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個々の個別記録に、気づきや本人の主張などを記入し、職員間で共有している。また、それに基づき意見交換や、対応、介護計画の見直しをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個別に散歩に行ったり外出の機会を設けている。コロナ禍で面会の制限があるが、家族とオンライン面会やガラス越し面会、対面面会を実施したりとその時の状況に応じて対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍の為、近隣の方々、又ボランティアなど来ていただく事が出来ておらず、地域資源を活用することはできていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>受診時や往診時、また必要時に相談をしたり、指導を受けられる様にしている。</p>	<p>利用開始前の主治医の受診継続も可能だが、内科では全ての利用者は協力医を主治医とし、2週間毎の訪問診療や総合健診を受けている。歯科は必要時に往診を受け、他科受診は家族又は事業所が協力している。訪問看護から月2回の健康管理もあり、適切な医療を受けられる体制を築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日頃から訪問看護師に相談出来る環境構築や、かかりつけ医に相談する様に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院前・入院中に相談員や医療関係者、家族などと密に連携を取り、情報交換や相談を行うようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>当施設では看取りは行っていない為、早い段階から重度化した場合を想定し、家族に契約時やその時々話し合いを行っている。その意見をもとに主治医や看護師、職員と今後の対応について決定するようにしている。</p>	<p>利用開始時に基本的な方針を説明し了解を得ている。原則看取りは行わず、重度化した際には関係者で話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。予め介護老人福祉施設等への申し込みの検討や協力医との医療連携をもとに入院による十分な医療支援体制に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>基本的には、24時間対応の訪問看護にまずは指示を頂き、主治医に連絡。緊急搬送が必要な場合は管理者が駆けつけ対応を行っている。又、年2回防災グッズの確認。食料の賞味期限確認、避難時を持って行く物や避難場所の確認等を行っている。コロナ禍の状況を見ながら、AED講習や普通救急救命講習を職員全員に受講して頂く様検討している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回以上避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署より指導を受けている。コロナ禍の為地域の方には参加して頂いていない。</p>	<p>事業所は消防署の立ち会いを含め、年2回以上の消防・防災訓練を夜間想定、利用者も参加して行っている。10年前の豪雨災害の経験も踏まえ、近隣保育園に災害時の一般的な協力要請を行う等、地域との協力体制作りを努めている。災害時には近隣系列事業所の後方支援や備蓄整備もある。</p>	



自己評価	外部評価	項目( 八木① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳を保ち、プライバシーを配慮した声かけや一人ひとりに合った言葉遣い、対応などを心がけて行っている。	職員は研修で幅広い知識習得と資質向上を図り、「虐待の芽チェックリスト」等により日頃の言動の振り返りを行っている。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも不適切な対応にはその場で気づきを促し、申し送り時にも居室番号を使用する等、個人情報にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりの状態や能力に応じ、出来るだけ自己決定の支援を行っている。自分の言葉での決定が難しい方には二者選択法等での方法で決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のやりたいこと、出来る事を職員間で共有し、出来る限り本人の希望に応じて一人ひとりのペースで過ごせる様支援を行うようにしているが、職員側の決まりを押し付けようとする場面がある時は、その都度注意しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理容に来て頂き散髪をしてもらっているが、コロナ禍の為、回数は減っている。その日に着る洋服を自分で選べる方は、ご自分で選んで頂いている。お化粧をされる方はご自身のやりたい様に身だしなみを行って頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の下ごしらえや片付けなど一緒に行っている。季節行事では、旬の食材を使い、料理を作る様にしている。食べたい物をお伺いすると『何でも良い』と言われる為、冷蔵庫と相談して作る事が多い。誕生日会では本人のリクエストに出来るだけ沿う形で提供している。又、出前の機会もあり、お好み焼きやお寿司が好評である。	毎日の献立は季節や食材を勘案し職員による三食手作りで提供している。利用者は盛り付け他、できる役割を担い、又、食が楽しめる様、寿司の出前・幕の内弁当の購入・おでんパーティー・ソーメン流し・ノンアルコールの提供等の工夫もしている。食卓の高さ等、食事姿勢にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目( 八木① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	栄養を考えしっかり摂取できるよう献立 を決めている。また、適宜水分が摂れる 様こまめに提供するなどで支援してい る。水分を摂りたがられない方には工夫 をして水分摂取して頂く様努力してい る。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの声かけを行い、ご本 人が難しい箇所は介助を行っている。入 れ歯の洗浄も実施している。また、必要 に応じて訪問歯科にて口腔ケアや指導も 受けている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	本人の状態や状況に応じて排泄パター ンを把握し、トイレの声かけ、誘導、交 換を定期的に行っている。必要に応じた 排泄チェック表の利用や、職員間での情報 共有で声掛けや介助に活かしている。	排泄記録表で排泄パターンを把握してト イレ誘導を基本としている。尊厳やプ ライバシーに配慮してケアに関わり、体調 に合わせたパンツの使い分け、姿勢安定 のために可動式手すりの設置、夜間排泄 時の転倒防止に人感センサーを設置する 等、状態に合わせた排泄の自立支援を 行っている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防のため、水分をしっかり摂って 頂いている。便秘気味の方は牛乳を飲ん だり服薬などで調整している。また、排 便チェックを行い、職員が把握できるよ うにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	曜日や時間等入居者の希望を聞けていな い。1日3人として、業務スケジュール で14時30分から入浴と決められてい る為、中々御伺い出来ていないのが現 状。『夏は暑いから』と決めつけ、シャ ワー浴のみとしていたので指導し、シャ ワー、浴槽につかる等現在は御本人様の 自己決定に沿える様に対応している。	週2～3回の午後浴が基本だが、利用者 の体調や入浴習慣に合わせ、好みの湯温 や時間等で柔軟に対応している。入浴は 据え置き式家庭浴槽や浴槽に移乗し易い 入浴台を活用した個人浴だが、シャワー 浴等の対応をしたり、季節も楽しめる 様、冬至に柚子湯を提供することもあ る。	

自己評価	外部評価	項目( 八木① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	寝具を清潔(干す・洗濯など)にしたり、居室の環境整備、室温管理を行っている。また、日中の活動量を増やすなどの工夫をし、昼夜逆転にならず、夜間ぐっすり眠れるようにしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルあり、普段から確認を行い、変更があった場合などにも確認を行っている。状態も常に把握し、形状を変えるなど不明な点などあれば主治医や薬剤師に相談、また指導を受けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事作りや掃除や作品作りなど利用者様に役割をお願いしている。役割以外の事をすれば従来の役割に戻そうと職員側が促す事があり、臨機応変に利用者様の楽しみ事と捉えられる様に対応を行っていく必要を感じた。又、暑い時期、寒い時期を除き個別ケアの一貫として散歩などで気分転換も図っている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為、外出の機会も減ってしまっているが、本人の希望に応じて、天気の良い日には公園へ散歩に出かけたり、ドライブ等と出かけるようにしている。	コロナ禍の緩和に応じ、利用者の希望により少人数で近隣散歩や馴染みの美容院や家族の協力も得ながらの受診等で外出している。コロナ禍で例年の外出行事は自粛中だが、お花見・紅葉狩りドライブや途中の自宅巡り等、普段は行けないような所で「非日常」を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	欲しいものや必要な物などを、希望時や買物時などに本人に代わって職員が購入する様にしている。認知症の為お金を紛失したり、利用者同士で見えない所でお金を渡す行為等考えられるが、お金を持つ事で安心感に繋がる事は職員も理解をしている為、状況に応じてリスクを説明し、利用者様、御家族様承諾の上、お金を持って頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目( 八木① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に合わせて電話をしたり、手紙を書けない利用者様には代筆を行ったり、ご家族からの手紙を受け取ると直ぐに電話をかける事で、ご家族様・ご利用者様双方喜ばれている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度調整や清掃など細かく行っている。また、季節感のある飾り付けや、展示物など利用者と一緒に工夫を行い、居心地のいい空間を作っている。	家族から差し入れの野菜や季節行事の飾り付け、利用者とする壁掛け作品等で季節の移ろいを感じられる様配慮している。寛いで食事が取れる様にオルゴールの音を流したり、帰宅願望のある利用者に対し、好きなテレビ番組等を録画しておいた物を流して気分転換を図る等の工夫もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自室にて一人の時間を過ごされたり、気のあった入居者同士が穏やかに過ごせる様、テーブル・席の配置の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今までの環境とあまり変わらないよう、慣れ親しんだ家具など持参してもらっている。また、本人好みの飾り付けや置物などで工夫されており、居心地のいい自室になっている。	居室にはベッド(畳仕様又は電動式)・収納棚等を設置し、テレビ等、使い慣れた物や家族写真等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫をしている。ベッドに人感センサーを設置して転倒防止を図ったり、ベッドから居室扉までの導線確保のため家具の配置替えをする例もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	椅子など利用者の状態に合わせており、手すりもつけ安全に配慮している。また、各居室に表札をつけたり、トイレなどの表示をし対応している。		

V アウトカム項目( 八木① ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設理念として、「安らぎとよるこびのある日々をその人らしくいつまでも」を掲げ、その実現に向け、利用者様ならびに家族様のご希望に出来る限り沿ったサービスを提供できるよう毎朝申し送り時に職員が理念を唱和し業務にあたっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の為、利用者の外出制限も必要となり思うような地域交流が行えていないが、8月より対面式の運営推進会議を再開し地域包括や民生委員、お世話になっている事業所、訪問歯科などに集まって頂き意見交流をすることができた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の理解や支援をしたいと思っているが、現在はコロナ禍の為なかなか地域交流を行えない状況が続いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で参加者が集まる事が出来ないので、利用者様の現状や実施したイベントの写真と報告書を作成し郵送し、意見を返信して頂いている状況である。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議が文書式で行われる中、ホームの生活の様子を写真を付けることで、より一層普段の様子が分かってもらえるよう工夫した。地域包括支援センターが開催するZOOMの研修会に参加させて頂いた。		

自己評価	外部評価	項目( 八木② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待・身体拘束のマニュアルも作成している。職員会議の中で内部研修を行い、職員の共通認識へとつなげている。身体拘束委員会を発足し身体拘束の知識の向上に努めている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待や人権擁護について職員会議で内部研修を実施し、職員が理解を深めている。身体拘束委員会の実施し日々の業務に不適切なケアが行われていないか職員同士で確認をしている。さらに虐待チェックリストを実施することで、不適切なケアが行われていないか確認をしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見人制度を利用されている利用者様がおられる為、職員もその必要性や意味の理解を深めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には、見学の他にも個別訪問を行い、家族様・利用者様と話し合いの場を設けている。入居が決定した際には、契約書、重要事項説明書を基本とし、理解、納得をして頂けるよう説明を行っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアプランの作成時には、家族様にご連絡をし意見を聞き可能な限り希望に沿い利用者様の個性を活かしたサービスを提供するよう努めている。家族アンケートを毎年実施しているので、結果を踏まえより良いサービスにつながられている。		



自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月カンファレンスを開き、職員間の意見交換、サービスの統一・向上を図っている。職員会議は職員が意見しやすい空気作りに努め、日々の業務内容等は利用者様の思いやペースを出来るだけ酌めるよう配慮した意見がでている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者が職員から、就労するにあたり不安や悩みを聞く機会を作り、出来る限りその解消に努めている。都度、管理者は上司に報告を行い、会社として環境を整えるよう努めている。資格取得への適度な促しやリーダーなどに昇格する機会をつくるなど、さらなる向上心や責任感などを持ってもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	現在はコロナ禍の為、外部研修への参加は中止をしている。内部研修で「倫理研修」「虐待研修」「看護研修」などを実施している。避難訓練や防災訓練にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	毎月ホーム長会議があり、そこでケアについての事例検討を行っている。電話などによって他の事業所と連絡を取り合い情報集を行いサービスの向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時には、あらかじめ利用者様の家族や介護支援専門員(相談員)より本人様の情報を集め、職員が利用者様の情報を共有できるようカンファレンス等で説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学や面接時に利用者様・家族の思いを聞きだし、アセスメントやケアプランに反映させるなどしサービスの向上に務めている。施設の説明をしっかりと行い、理解して頂いた上で、出来る限りの不安を取り除き、要望等に対応できるよう努めている。体験入居の実施なども行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に介護支援専門員や家族様から情報収集を行い、本人様のニーズに合わせたケアプランの作成し職員が入居前に情報を共有できるようアセスメントを見てもらったり、連絡ノートを活用や毎月のカンファレンスで話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員には利用者様の状態や心理状態を考慮した対応を行えるよう教育し、ご飯作りや洗濯物、掃除など時間がかかったとしてもご自分でできることはなるべくして頂けるような声掛け、介助などの支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様との関係については、入居時に説明を行っているほか、ケアプランの中にも、「家族様との関係の維持」という項目をいれてる。コロナ禍の為、面会制限があり利用者様も寂しい時を過ごすことが続いたが、現在はテレビ電話も含め、事務所内での面会の実施ができるようになり解消できた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍でなかなか外出が難しいが、感染者数の状況を見て、家族様や親戚などの面会を実施したり、テレビ電話の形で実施している。馴染みの理美容院へ散髪に行く支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	定期的にデイルームの配席の見直しを行い、同じ趣味を持った方やお話しの合う方を同じテーブルにしている。入浴日や行事のことも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて家族様に連絡を取り、退去後の生活状況を伺い、相談事があれば、話を聞き入れサポートを行うよう務めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様との時間を大切に、出来るだけコミュニケーションをとることにより個々の思いや希望を取り入れるよう努めている。正月や花見、その他のイベントの時にノンアルコールビールで雰囲気を楽しむ喜んでいただけている。編み物やぬり絵、計算プリントなど個別ケアに対して柔軟に対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、本人・家族様と面談を行い生活歴や生活環境の情報を収集している。その他、担当の介護支援専門員や相談員より情報を入手するなど行っている。日々のケアの中でコミュニケーションを密にとることで情報集が出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月のケアカンファレンス時に、管理者・職員間で話し合い利用者様一人ひとりの検討を行いサービスの向上・統一に努めている。リスクなど考慮しながら、利用者の身体レベルの現状維持を考えて出来ることを探して実行している。		

自己評価	外部評価	項 目( 八木② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画の作成については利用者様、家族様、医療関係者の意見を取り入れるよう努めている。日々職員が利用者様から思いを聞きだすことに努めており、毎月のケアカンファレンス時に、管理者や介護職員が話し合いを行いその結果をもとに家族に相談し計画を作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	基本的にはケアカンファレンスで介護計画を立てていくが、日々のケアの中で気づいた点は細かに記録し必要があれば管理者へ報告している。申し送り時にできた課題などもその都度修正し、職員が統一したケアができるよう連絡ノートなど使用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ禍でなかなか散歩などの外出が出来ない為、車で紅葉狩りへドライブへ行ったりして気分転換を図るなど実施している。ホーム内でスイーツバイキングや季節に応じた行事を実施した。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の為、利用者の外出制限も必要となり思うような地域交流が行えていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間毎に、協力医の先生に往診して頂いている。事前に利用者様の状態、ニーズを報告しお薬の調整をしてもらっている。血液検査やレントゲンも定期的に行っている。体調不良時には、24時間連絡が取れる体制を設け、いつでも指示がいただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( 八木② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月2回訪問看護の往診があり、利用者様の状態を報告している。利用者様が直接体調について看護師に相談も行っているケースもある。24時間対応なので夜間の体調不良時や転倒しけがした時に連絡を入れ対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を病院へFAXするか持参している。認知症の有無について最近聞かれることが多いため、どの程度の進行度かも伝えて対応してもらっている。退院時にも病院の看護師や相談と連携し、退院時の状態や内服薬、気を付けることなど聞くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の指針」は、入居時に家族様に説明しサインをいただいている。常時、医療行為が必要な場合は、ホーム内の対応は難しい為、協力医に相談し入院先の手配、援助を行えるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変に備え、マニュアルを作成している。新しい職員にはマニュアルを使用し教育も行っている。内部研修で救命講習を実施し職員全てが参加するようになっている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ホーム内で年二回以上、夜間想定避難訓練を実施している。その際に実際に「火災通報専用電話機」を使用した訓練も行っている。その他、近年の土砂災害をうけ災害マニュアルを作成し職員に周知をしている。災害時の研修や訓練も行っている。		

自己評価	外部評価	項目( 八木② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	信頼関係を築くため、言葉かけや呼称には気をつけている。グループホームという場所を理解したうえでの声掛けを配慮し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定を大切にしており、思い出のアルバムを見たり、編み物や天風録、塗り絵などそれぞれが自由に日々過ごされている。レクの参加など利用者様の希望に対し出来るだけ個別対応している。食事に関してはあえてメニュー表を作らず、利用者様の希望の食事を取り入れることができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のやりたいこと、出来ることをしっかりと職員が把握し、ご自分のペースで生活をして頂いている。必要に応じて声かけを行うが貼り絵、編み物、食事作りなど個々の対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理容師に来て頂き本人の意向でカットやカラーを楽しまれている。洋服もなるべく選んで頂くようにしている。毎朝、くしで髪をとかれたり、家族様に本人様の化粧品の購入を依頼し、身だしなみやおしゃれに支援できるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎食ホームで作り味覚、視覚、嗅覚、聴覚などで食事を楽しんでもらう様に努めている。食材を切ったり食事の盛り付けをして一緒に作る楽しみも感じて頂いている。旬の野菜を取り入れることで季節を感じて頂くよう心がけている。おでんバイキングやスイーツバイキング、ソーメン流し、山菜料理など実施し楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目( 八木② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	利用者様の食事量を毎日記録し、毎月体 重を測定し推移を観察している。食器の 大きさや色を工夫しなるべく食べてもら えるようにしている。糖尿病の為、食事 量の制限がある方についても、それぞれ 職員が把握し支援を行っている。熱中症 予防のため、水分摂取の回数を増やして みたり声掛けなど提供方法など工夫をし ている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの見守り、必要に応じ て介助を行い口腔状態の保持・改善を 行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄については、量、質、形状を確か め、毎回グラフ化している。その習慣に 合わせてケアすることが出来ているの で、失禁の回数も軽減できている。夜間 については、尿量に合せたパッドの使用 やトイレへの誘導を行い、本人様の負担 も軽減できている。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表により、利用者様の個々 の排泄の習慣を把握し、トイレ誘導を行 う様にしている。便秘の方は、医師に相 談し、利用者様に合った処方をしてもら い対応をしている。排便を促す為、毎朝 ヨーグルトを提供したり、玄米茶の使用 するなどお茶も工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴回数表を作成し、毎日記録するこ とで入浴回数の把握をしている。拒否の ある場合などについては、声かけを工夫し 気持ちよく入浴して頂いたり、入浴日 を変更するなどして対応している。ゆず や入浴剤を使用する事で変化を出してい る。入浴時の水温も個別に調整したり湯 船の嫌いな方はシャワー浴対応などして いる。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様のペースで生活して頂けるよう、個々の生活パターンの把握に努めている。夜間の睡眠の妨げにならない様、声かけを行っている。また、室内の温度にも気を配り1日の入眠時間を大切にしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	協力医に、隔週で往診に来てもらい、そのときの利用者様の状態の変化や利用者の希望などを報告し、薬の調整を行っている。全利用者の最新の薬情をファイルし職員がいつでも閲覧・確認できる環境を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様の趣向に合わせて、残存機能を保持できるよう支援する為、日常生活で行う、食事や、洗濯物、掃除など本人の活躍できることを見つけ、自信につながるよう生活支援をしている。外出の好きな方は散歩や買い出しに積極的に出してもらっている。塗り絵など個々にあったサービスを行う事で楽しんでいただいている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で思うような外出支援は行えていないが、天気の良い日には積極的に公園まで散歩へ出かけたり、紅葉狩りでドライブへ出かけたり出来ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持っておくことで安心につながることを職員が理解している、認知症があるため物とられなどの症状、実際にお金をなくしてしまう可能性があることを家族様に理解してもらったうえで、多額でない金額を持つことが出来るようにしている。		



自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	テレビ電話をしたり、家族様や親せきの方から手紙を頂いたりすることがある。家族様宛に年賀状を作成し投函する支援を行っている。手紙が届いてその返事を書かれたり支援を行えている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設の雰囲気を抑え、極力家庭的な雰囲気を演出し、利用者様が戸惑わないよう配慮を行っている。採光については、自然の光に触れて頂けるよう、採光窓も設置している。壁には季節感を感じていただけるような貼り絵の作品や飾りで演出をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様の個々の趣向や話の合うもの同士、生活のペース冷暖房の位置、身体レベルを職員が考慮しカンファレンス時に話し合い、デイルームの配席は定期的な見直しを行い利用者様同士が支えあえる環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が生活しやすいよう、出来るだけ馴染みのある家具を使用して頂き、居室の環境整備に努めている。また、家族様の要望も聞き入れ、利用者が主体的に生活出来るよう配慮を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ内の手すりを増設したり、広さも車椅子のまま中へ入ることが出来る。施設内では壁に手すりを設け、安全に歩行して頂けるような設備を整えることで、自立した生活を営んで頂いている。ベッド柵に柔らかい素材の物で覆うなど工夫している。		

V アウトカム項目( 八木② ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・八木

作成日 令和5年12月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	職員は、利用者様を介護される一方の立場に置かない。全職員の意識統一。	利用者本位での思考が出来る。	利用者目線で考える事が出来、行動や言動に繋げる事が出来る。又自己評価で職員と面談し評価を行っていく。	年1回
2	3	運営推進会議の内容の見える化の実施。	運営推進会議の内容が家族へ伝わる様にする。	運営推進会議議事録を家族へ伝わる様、請求書に同封し送付を行う。	2か月毎
3	35	日中、夜間の避難訓練を実施しているが、新入社員がいたり、前回の参加から期間があいている職員がいて緊急時に動けるかが不安である。	避難訓練（防災・火災）の回数を現状よりも増やす。	防災訓練、火災訓練の実施のために年間計画を作成する。	年3回以上 (火災のみ)
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。